

# 新しい時代の始まりに

春もきた、この機に〈いま〉を  
見なおし望むレイトワーク

## contents

- ・どこからきたのか 2
- ・なにものか 2
- ・どこへいくのか 2
- ・自他との観察 3
- ・現在の観察点 3
- ・今後の経過観察 3
- ・「魔法」はつかえ… 4

## 『レイトワーク』

人生〈後期の仕事〉を指しています。「大江健三郎」が「ニュースステーション」に出演した時に紹介したエドワード・w・サイードの論です。「久米宏」の番組降板が決まっていた時期のことです。第一線から退いた後にこそ果たせる役割、創作、創造があり、「あなたもそうするはず」と〈予言〉していました。

ちょうどそのようなことを考えていた時だったので、この言葉と概念が心になじみました。

## 「メアリー・ポピンズ」にたとえられて

新元号は「令和」。今回は静かな時代の移行となりました。平成に入ったときは、1月7日朝一番につけたラジオから荘厳な音楽が流れてきて、“…?”としばらく耳を澄ましたのを覚えています。

平成の始まりは、実はわたしの今に至る始まりでもありました。前年末のうちに退職願を出し、明けて1989年1月末に勤めていた会社を辞め、1年の〈リフレッシュ休暇〉を決めこみ、偶然新聞でみた大阪YWCA専門学校の社会人向け新設コースに入学したのが伏線。

入学早々、米国とニュージーランド出身の講師から別々に同じようなことを言われたのです。『どうして自分でマネジメントすることを考えないの』。転職ではなく独立して自分でやればいいのか、というのです。

その時点では、そんな簡単なことじゃないと反発したのですが、1990年春卒業後に転職して半年が過ぎた頃、あの言葉がにわかに甦り、

1991年春に独立。まさかそのような人生の選択をするとは、まったく想像していなかったことです。

そうこうして28年がすぎ、時代は平成から「令和」に入りますが、年初の1月に仕事で長いお付き合いの方から次の一言をいただきました。「リーさんを誰かにたとえるとすれば誰だろうと考えていて、閃いた、メアリー・ポピンズ」。

メアリー・ポピンズ…。名前は知っていますが、原作も映画もみたことがなく、とっさにはピンときませんでした。そこでためしに周りに尋ねてみたら、お一人から素敵な回答、「風によって必要な人のところに舞い降りる〈幸運運搬人〉」。

調べてみるとその風は東風らしい。方角の東には「春」や「未来」の意味があります。

**必要な人に春や未来を運ぶ!**を心にきざむ「平成」最後、「令和」目前の2019年清明です。

## あゆみ

- 1991年 「パーソナル・アシスタント」業開始
- 1992年 「中小企業診断士」に出会う
- 1995年 事務所開設、月例リーズサロン
- 1996年 「中小企業診断士」登録
- 1998年 ホームページ開設
- 2001年 booklet『哲樂の中庭』製作
- 2010年 コンサルティング独自メニュー研究開始
- 2014年 『経営略系コンサルティング』up
- 2015年 『自業コンサルティング』up
- 2016年 booklet『自業のすすめ』掲載
- 2019年 リーズレター臨時号(4月)

## 『究めればそこが天職』

\*大先輩から頂戴した額の言

大阪YWCAの社会人対象全日制1年コースを1990年春に卒業し、6月に外資へ転職したものの、会社勤めする限りはどれもあまりは変わらないと感じて、「自分でマネジメントする」を選択。

では何をやるのか。かの講師の言葉が甦ります。「独立するなんて、簡単さ。電話とファクス、PCがあれば、自宅を事務所に始められる。要はここだ!」と言って、こめかみに指をあてた。自分の頭、アイデアしだいと言われていたのです。

2ヶ月ほどずっと考えました。いま思えばビジネスモデルにあたることを、考えて、考えて、考える。そしてある瞬間、すべてがカチッと繋がり、頭の中に出来上がります。

それに「パーソナル・アシスタント」と名づけるまでには、あと1ヶ月ほどかかりましたが、まずは〈自分ならではの〉業を生んだのでした。

以来、世にもまれ、自他ともに開眼しつつ、根は変わらず、『究めればそこが天職』の未だ途上です。

## 『我々はどこから来たのか、我々は何者か、我々はどこへ行くのか』(ゴ-ギャン)

## 自業、自流

自分ならではの仕事と人生をさす言葉として「自業」(じぎょう)を、自分の流儀や大きな人生の流れをさす言葉として「自流」を使っています。経営も人生も社会の大きな流れの中で個々のいき様がある、という意味をこめています。

## 「どこからきたのか」 — 自業の源流 —

創業、起業相談などでよく文章を書いてもらいます。ゴ-ギャンの絵のタイトルをもじって、「わたしはどこから来たのか、わたしは何者か、わたしはどこへ行くのか」。最終的に800字程度にまとめたものを見せてもらいます。

これをわたしが書くとすれば、まず小学生の頃のある情景です。記録せずともずっと記憶していることの一つ。今になって腑に落ちる自業の原点、根っこ、源流。

小学生の3年だったか、夏休みの昼下がり、自宅の小さな庭の縁台に横たわり、地面の蟻の行列に

ちょっかいを出しては、空を見上げ、視界はせまい、でもはるか高い青空を見つめて、また地面をみて、空をみて。

このとき子供ながら今ここに生きる不思議さのようなものを感じていたのだと思います。もっといえば宇宙というようなものを。

7,8年前でしたか、ふと、“わたしはいつの時代に生まれても今とあまり変わらないのではないか…”。

500年前でも100年前でも、スタンスは今とあまり変わらず生きているように感じます。

## 考える 「偶然性」

何ですかそれ？と言われ続けた「パーソナル・アシスタント」。

このLYK流仕事のスタンス、スタイルをうまく使いこなす経営者に、極少ながら、めぐり会ったおかげで今がありますが、それぞれに不思議な縁を感じます。

そういうことを考えてみようとして手にした本。結局のところ「偶然性」に意味を感じるかどうかは自分しだい。意味を感じて、関係性を育むことで人生にストーリーが生まれます。

## 「なにものか」 — LYK流「パーソナル・アシスタント」 —

独立当初は価値観を共有する中小企業経営者の経営企画テーマを外部から協働してアシストする仕事と決めました。

まだ診断士はとっていませんでしたが、のちに知った『日常業務は戦略的業務を駆逐する』状況から脱せられるように状況設定する役割と捉えていたのです。

ですから自分で事足りない場合はその他の外部資源をあたり、適

性をはかり、経営者へつなげ、調整し、進捗を管理する。時にコーディネーター、プロデューサー、代理人、使用人、etc。

2004年からは創業、起業支援の機会をえて、果たす役割は「かがみ」のようなもの。本人の漠然とした構想を、問答を繰り返して追究し、コンセプトを引き出して、その人ならではの業と道のりを描いてみせる、映し鏡。

## 「どこへ行くのか」 — 終末の自画像 —

仕事で使うオリジナルのツールがいくつかあります。その一つ『ビジネス×ライフ略系表』。経営と人生を鳥瞰できるようにつくりました。

表の一番上にある枠が「終末の自画像」。晩年に描く自分像、生活像、事業像などを一行で簡潔に書くようにしてあります。

直感的におもったことを書いてもらいますが、わたしは独立した当初から今も、『この世をさるその瞬間

に、“ああ、おもしろかった！そこそこわたしを生きた！”と想いながら逝く』。

いつの頃からか「パーソナル・アシスタント」は生き方のコンセプトでもあると気づきました。公私ともに誰かの「パーソナル・アシスタント」であることがもっとも自分ならではの>になり、それが本分。

そのための知と技法の基礎は習得し終え、今後も修練を重ねます。



『ひとりひとりの人間は、もし自分をこまかく観察する能力を持っているならば、自分自身にとってひじょうによい教育材料となる』(モテニユ)

## 自他との観察・観測 — 思考の型 —

自業をとおして多くを学び、自分なりの観測を得ました。その中で一つ挙げたいのは「思考の型」です。同じテーマで思考を巡らせても、人によって思考のドライビングが違ふ。大まかに3つのパターンがありそうだと見てとったのです。点型、線型、面型。いちばん多いのは線型と推察しています。

線型は、例えば、テキストを読むときは最初から順番に読む。仕事の引継ぎをされるとしたら、自分の担当部分だけ教えてもらえばいい、でも手順は細かく。ノートは横罫がある方が書きやすい。

面型は、テキストは先に目次とあとがきを見て、流し読み、あるいは要点を図形化。ノートは線なしまたは方眼の方が使いやすい。引継ぎは先に全体の仕事の流れから教えてもらいたい。

点型は、閃きタイプ。前後の作業にはあまり思考がいかず、しっかりした補佐役が必要。ノートを使うとすれば無地、なくてもいろんなものに直感メモ。

この話に「合点がいった」の声をよく聞きます。助言の際には尋ねて、その人に会いそうなワーク法を伝えています。

## プラスα 意外に「鍵」!?

声をとりとまとめると、線型と面型の人と一緒に仕事をする際に、両者の関係性に少なからず影を落としているようです。

例えば講師の仕事準備する場合に、線型はきっちりシナリオを作ろうとする。面型は、大枠や要はかっちりおさえて、当日の状況に応じて進めようとする。前者は“そんな大雑把な…”、後者は“受講者もいろんな人がいるし…”。

けっこう軋轢が生じていそう、この思考の型、すこし気にとめてみてはいかがでしょうか。

## 現在の関心・観察点 — 感覚の差異 —

先の「思考の型」を観測できたのは、1995年から5年ほどよく読んだ脳科学や認知科学のおかげだと思います。最初のきっかけは、自分では当たり前、でも人からみて「普通と違う」といわれたことが多く、なら、それを探ろうと。

さて、ここ2、3年前から気になっていること、「感覚」。同じ人を見て、話をきいて、感じとるものの個々人の差。嗅ぐ、肌を感じ

る度合いもまたしかり。

もって生まれた質と育った環境の中で心身に養われた感覚。それが社会的知性の大事な要素になり、社会生活や生きる上で、自分を守る、〈自分を生きる〉、重要な要素になっている…。

2月に出た本の帯について目がとまりました。『知識は、盗まれる 感覚は、盗まれない』。

## 視点 大人に情操教育

最近出版されるビジネス関連本に「美意識」、「哲学」、「教養」の大事さをうたうものが増えています。AI社会を迎える時代の要請ですが、大人にも情操教育が必要な社会になっているような気がしています。

多様な人間の存在、それぞれの喜怒哀楽、社会の普遍的な価値などを直感的にとらえ、わかるようになる。

身にそなえるには時間がかかりますが、「読書」はとりくみやすい方法の一つ。社員研修のメニューに加えている会社もあり、より積極的、本格的に取り入れてほしいものです。

## これからの経過観察 — 時流と人間の変化 —

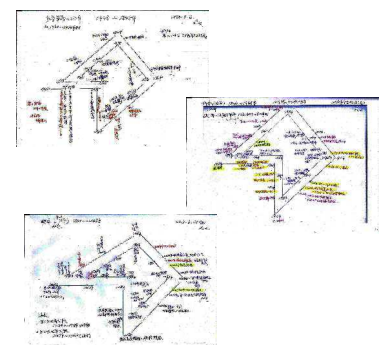
わたし自身の思考は面型。「全体」から「部分」へ、「そもそも何故?」を聞いて「何を」に話を移したい。大きな社会の変化、時代の流れに目をむけるのもそのせいかもしれません。

50年節目の大構造変化、100年節目の大転換を目安に、1945年からの50年、1995年からの50年を見てきて、2020年以降を読むのに、そうだと、1945年の100年前をみてみようと思いたちました。昨年夏のことです。1845年からの100年。

とです。1845年からの100年。

すると、うん?!、この出来事がこの時期だったとしたら、その前に何かあるはずで…と、さらに100年前を遡ることになって、いきあたったのが、「産業革命」。

2045年に至る(?) シングularity。人間は環境の生きもの、個人的には未来にあまり楽観的な到達点は描けませんが、観察は続けながら、これから第一線に出る人々を支えたいと思います。





リーズ <http://www.leeslee.com>

〒530-0012 大阪市北区芝田2丁目8-15 北梅田ビル35号  
Tel & Fax: 06-4802-1525 Info@leeslee.com

\*ホームページより『LEE'S概要』

「メアリー・ポピンズ」のような  
「パーソナル・アシスタント」をここに

経営・人生・道の途上に  
時として自問して惑うあなたに  
自答の手がかりをとどけるLYK流コンサルティング

『経営略系コンサルティング』

『ビジネス×ライフ略系表』をはじめ、独自のアウトプットをもとに、経営と人生を戦略的に進むための、ある意味、＜仕様書＞を提供するものです。詳しくは、「経営略系コンサルティング」をご覧ください。

『自業コンサルティング』

自業を「じぎょう」と読み、＜自分ならではの＞仕事で誰かのために、自分の価値観に合った生き方を指しています。詳しくは「自業コンサルティング」をご覧ください。

所名	LEE'S リーズ
代表	パーソナル・アシスタント リー・ヤマネ・清実(きよみ) 『Style-仕事の原点』 『Study-仕事の役目』
信条	人の可能性は人の働きかけによって拓かれる
役目	人の可能性を拓くよりよき働きかけをする
モットー	気にとまったこと、思い立ったことはやり過ぎさない
所在地	大阪市北区芝田2丁目8-15 北梅田ビル35号 TEL.06-4802-1525 FAX.06-4802-1525
問合せ	<a href="mailto:info@leeslee.com">info@leeslee.com</a>
独立	1991年3月独立、1995年3月事務所開設 *独立のきっかけをインタビューに応じて話しています
事業	コンサルティング&プロデュース ●パーソナル・アシスタント ・経営者、経営層、起業家等の経営企画活動支援 —戦略的業務をよりよく実践できるようプロデュース ・『経営略系コンサルティング』 —経営と人生の目的を確認し、過去から未来を鳥瞰し、想定し、戦略的業務に臨むようアシストするLEE'S独自のコンサルティング ・『自業(じぎょう)コンサルティング』 —＜自分ならではの＞の仕事といき方、「ライフワーク」を見つけるLEE'S独自のコンサルティング ●セミナー・研修企画・講演 ・起業、企画、戦略、コミュニケーションが主なテーマ —大人数の講演以外、受講者との対話を軸に、プロジェクターは使用せず、レジメを参考資料にホワイトボードに描画するスタイル

「魔法」はつかえませんが

つい先日は元受講者の人から、今日は仕事の旧知の人から、「わたしたちのことが見えているんでしょうね」。思わず吹き出しました。「見える?!」。

創業・起業塾などでは初日の自己紹介と2回目までに提出された800字の文章を読んで、コンセプトの芽にあたるようなことを各自へフィードバックします。

それがみなさんにすれば、“なんでこんなことがわかるんですか?!”となるようで、それが「見える」にみえるそうです。

そうみえるとなれば、たぶんこ

れまでに出会った公私ともの人生の先輩たち、本で知った先達たち、知の巨人たちの＜文化資産＞のおかげです。

そのつど何かを感じ、考える機会を授かりました。多様な学びを導いてもらいました。

『メアリー・ポピンズ』はけっこう鼻持ちならない面もあるようで、それも似ているのかもしれませんがつかえませんが。

「魔法」はつかえませんが、「学び」を総動員して、必要な人に＜仕合せ＞を運んでいきます。

10月	本誌	読者プレゼント抽選会開催、読者プレゼント抽選会開催
11月	本誌	読者プレゼント抽選会開催、読者プレゼント抽選会開催
12月	本誌	読者プレゼント抽選会開催、読者プレゼント抽選会開催

10月	本誌	読者プレゼント抽選会開催、読者プレゼント抽選会開催
11月	本誌	読者プレゼント抽選会開催、読者プレゼント抽選会開催
12月	本誌	読者プレゼント抽選会開催、読者プレゼント抽選会開催

